

新宿区次世代育成支援に関する調査報告書 概要版



平成20年11月17日～12月1日まで、区民の方5,000世帯を対象に郵送で調査を実施し、2,547名の方から回答をいただきました。いただいたご意見は、21年度に策定する次世代育成支援計画（後期）に生かしてまいります。

これは概要版です。調査報告書は、子ども家庭課、区政情報センター（本庁舎1階）、特別出張所、児童館、保育園、図書館等でご覧いただけます。また、新宿区ホームページの子ども家庭課のページでもご覧いただけます。

平成21年3月

新宿区

◆新宿区を子育てしやすいまちだと思ふ人、
子育てが楽しいと思ふ人が増えました。

新宿区が「子育てしやすいまち」だと思ふ人が増えました。
また、子育てを「とても楽しい」と思ふ人も増えています。



新宿区が子育てしやすいまちだと思ふ人の割合

掲載ページ ⇒ p 10

	平成 15 年度		今 回
就学前児童保護者	24.7%	↗	35.9%
		(計画の目標値 32%)	
小学生保護者	16.6%	↗	35.0%
		(計画の目標値 21%)	

子育てを「とても楽しい」と思ふ人の割合

掲載ページ ⇒ p 2

	平成 15 年度		今 回
就学前児童保護者	38.6%	↗	50.4%
小学生保護者	32.1%	↗	40.2%

◆今回は、新しく中学生本人及び中学生保護者調査をしました。
(親子対象ではありません)



食事に対する意識には、中学生とその親の世代で
差が見られました。

食事で大切にしていること

掲載ページ ⇒ p 6 17

中学生保護者が子どもの食事で大切にしていること			
栄養のバランス	82.1%	家族との会話	55.8%
中学生本人が食事で大切にしていること			
おいしいこと	78.8%	栄養バランス	63.6%

ブログやプロフ、ホームページを持っているか
どうかの認識では、中学生とその親の世代で差が見られました。

ブログやプロフ、ホームページを持っているか

掲載ページ ⇒ p 18

中学生本人	中学生保護者
持っている 20.7%	子どもが持っていると思う 11.5%



調査の概要

調査設計

標本抽出	住民基本台帳から年齢別に無作為抽出
調査方法	郵送配布一郵送回収法
調査期間	平成20年11月17日(月)～12月1日(月)

調査対象(平成20年10月1日現在)

1 就学前児童の保護者調査	区内在住の就学前児童の保護者
2 小学生の保護者調査	区内在住の小学校1年生から小学校6年生の保護者
3 中学生の保護者調査	区内在住の中学校1年生から中学校3年生の保護者
4 中学生の日常生活と意識に関するアンケート	区内在住の中学校1年生から中学校3年生
5 青少年の日常生活と意識に関する調査	区内在住の15歳から17歳までの男女
6 少子社会に関する調査	区内在住の18歳から34歳までの男女

回収状況

	対象者数	有効回収数	有効回収率
1 就学前児童の保護者調査	1,500	920	61.3%
2 小学生の保護者調査	1,500	924	61.6%
3 中学生の保護者調査	300	190	63.3%
4 中学生の日常生活と意識に関するアンケート	300	151	50.3%
5 青少年の日常生活と意識に関する調査	300	113	37.7%
6 少子社会に関する調査	1,100	249	22.6%
合計	5,000	2,547	50.9%

報告書の見方

- 1 図表の中のnとは該当質問の回答者数を表しています。
- 2 本文、図表中の百分率(%)は小数点以下第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合があります。
- 3 図表作成の都合上、選択肢表記や回答の小さい比率は、短縮・省略している場合があります。

就学前児童保護者・小学生保護者・中学生保護者調査の結果

1 子育てについて

1 子育ての楽しさ

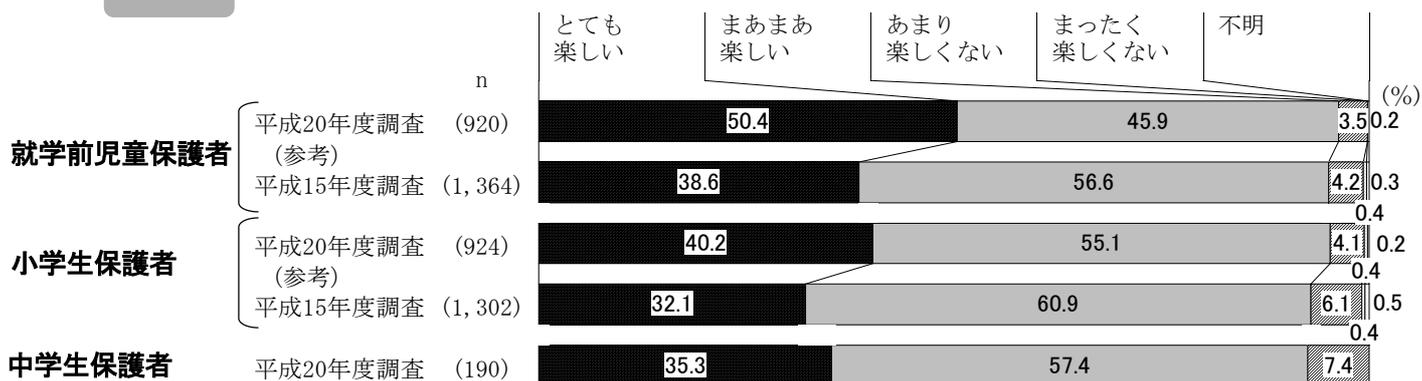
就学前児童
保護者

小学生保護者

中学生保護者

子育てを「とても楽しい」と思っている保護者は、就学前児童では50.4%、小学生では40.2%、中学生では35.3%となっています。

図表1



2 子育てのつらさ

就学前児童
保護者

小学生保護者

中学生保護者

子育てがつらいと「いつも思う」という保護者は、就学前児童では3.3%、小学生では4.4%、中学生では5.3%となっています。

図表2

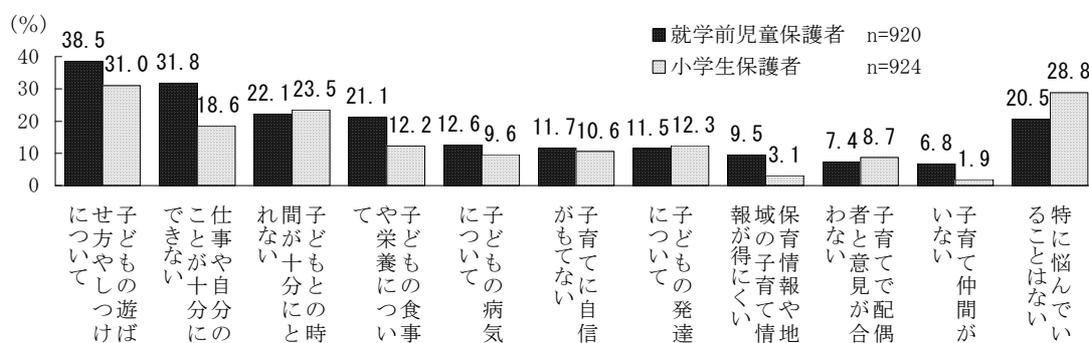


子育ての悩みは、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「子どもの遊ばせ方やしつけについて」が最も多くなっています。就学前児童保護者では、次に「仕事や自分のことが十分にできない」が31.8%で続いています。

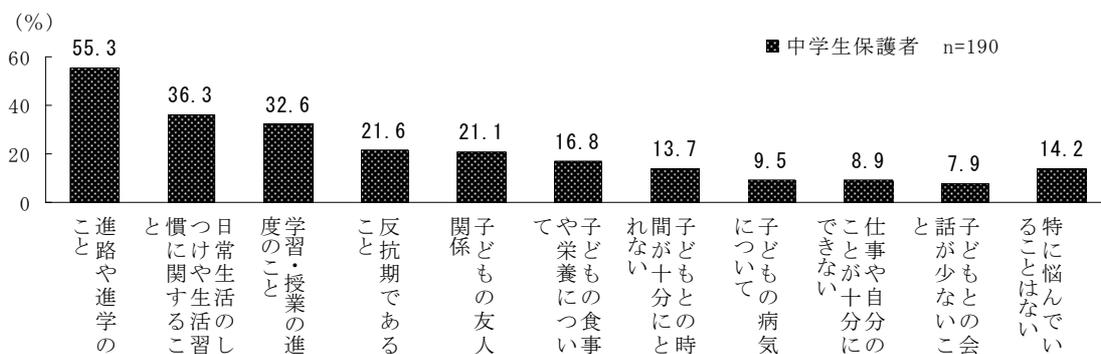
中学生保護者では、「進路や進学のこと」が55.3%で最も多く、次に「日常生活のしつけや生活習慣に関すること」(36.3%)、「学習・授業の進捗のこと」(32.6%)の順に続いています。

図表3 (複数回答、上位10項目および「特に悩んでいることはない」)

就学前児童保護者・小学生保護者



中学生保護者



2 地域での子育て支援について

1 子育て仲間について

就学前児童
保護者

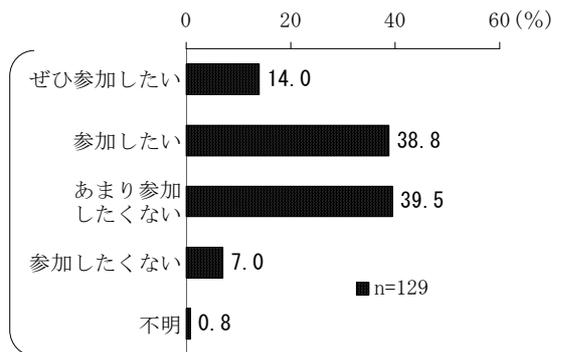
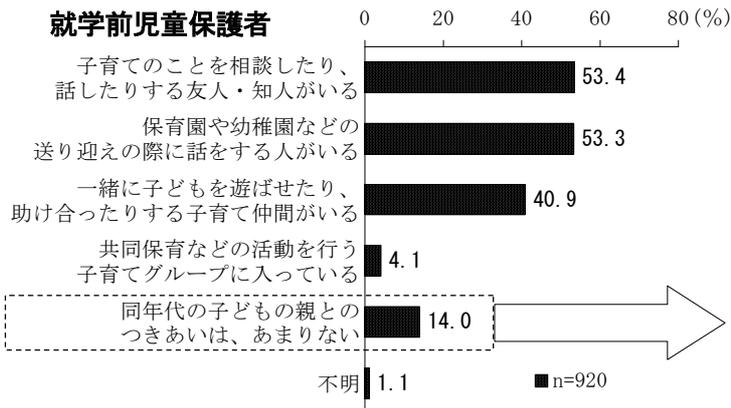
小学生保護者

子育て仲間については、「子育てのことを相談したり、話したりする友人・知人がいる」が就学前児童保護者では53.4%、小学生保護者では55.3%となっています。小学生保護者では、「PTAや保育園・幼稚園時代からの同世代の子どもを持つ子育て仲間がいる」が73.9%で最も多くなっています。

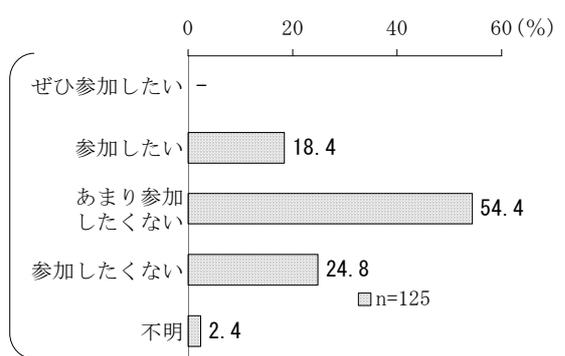
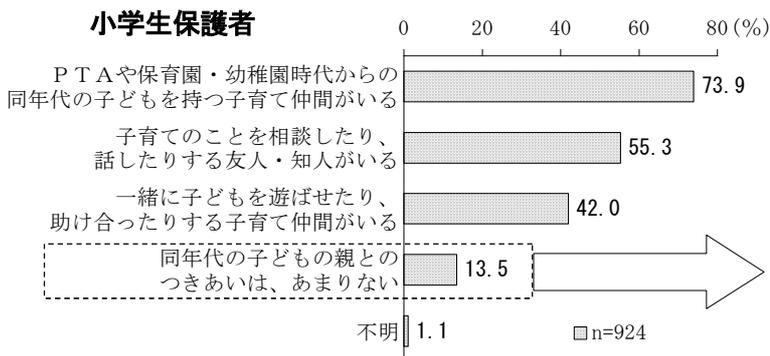
図表4 子育て仲間の有無（複数回答）

図表5 仲間づくりの機会への参加意向

就学前児童保護者



小学生保護者

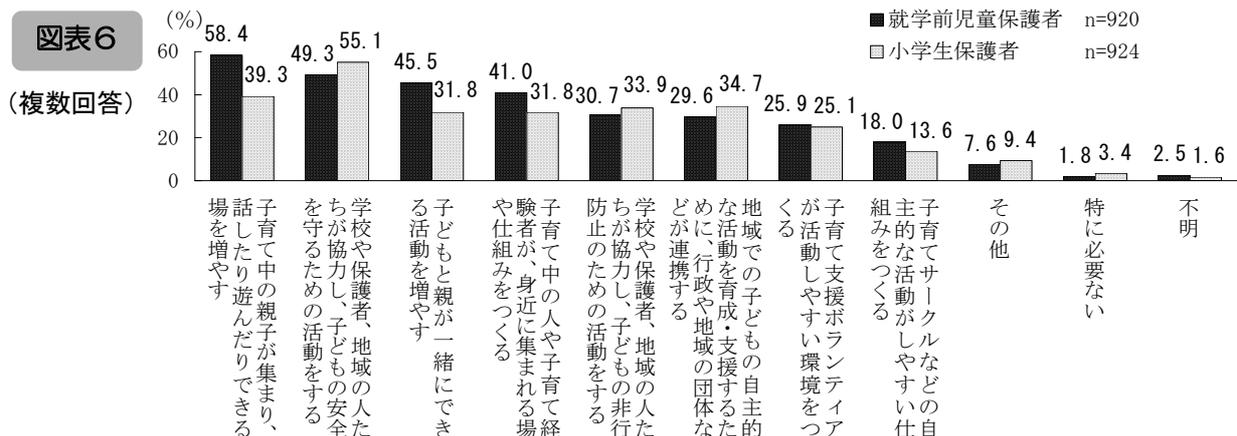


2 安心して子育てするために地域で必要だと思う取り組み

就学前児童
保護者

小学生保護者

安心して子育てするために地域で必要だと思う取り組みは、就学前児童保護者では「子育て中の親子が集まり、話したり遊んだりできる場を増やす」が58.4%、小学生保護者では「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全を守るための活動をする」が55.1%で最も多くなっています。



3 子どもの遊び場や外出環境について

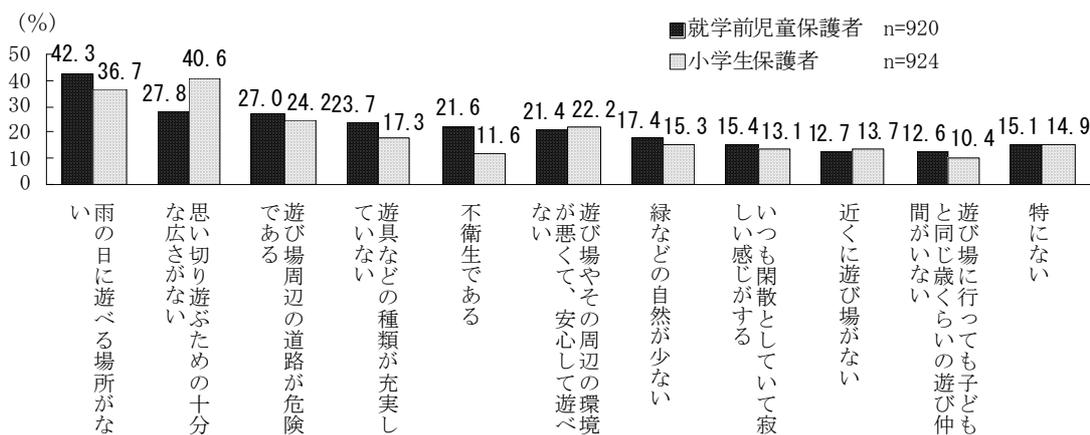
1 子どもの遊び場で困っていること

就学前児童保護者

小学生保護者

子どもの遊び場で困っていることは、就学前児童保護者では「雨の日に遊べる場所がない」が42.3%、小学生保護者では「思い切り遊ぶための十分な広さがない」が40.6%で最も多くなっています。

図表7 (複数回答、上位10項目および「特にない」)



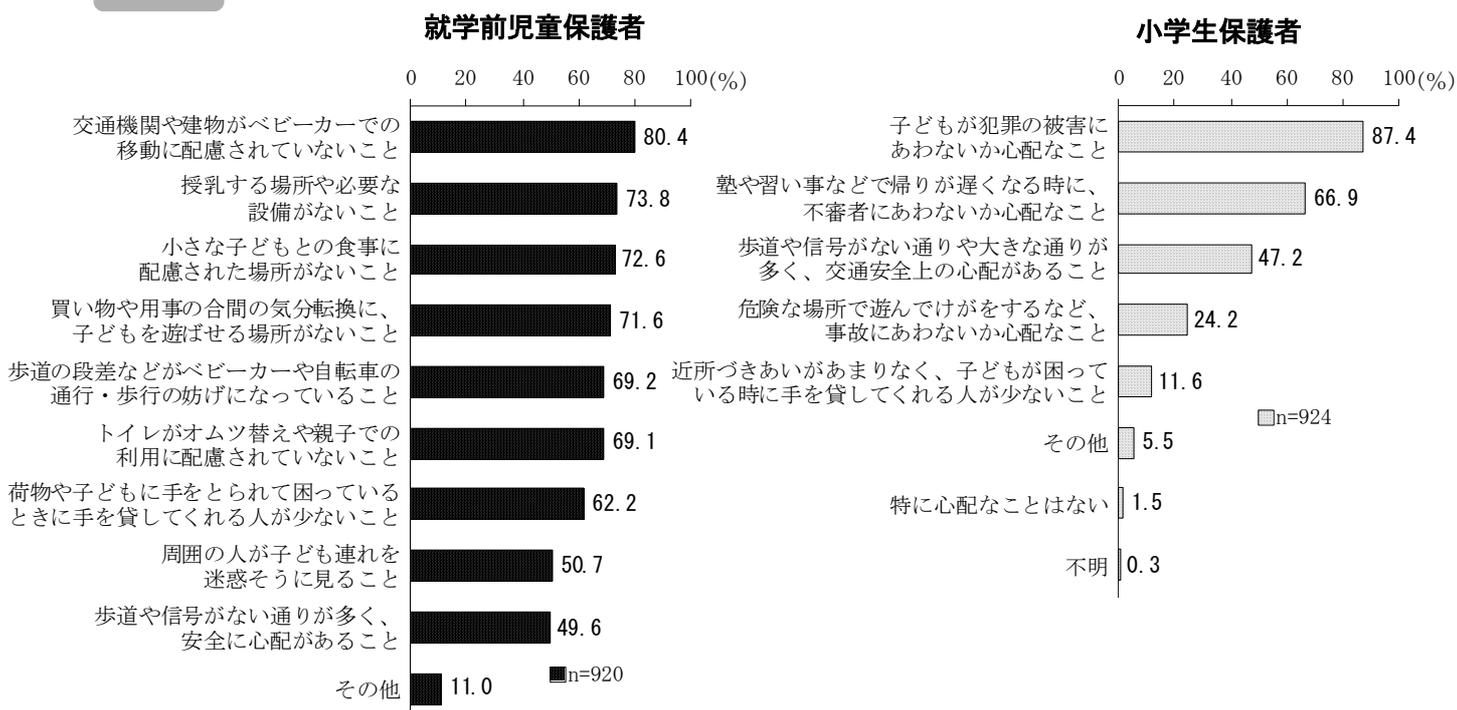
2 子どもと外出/子どもだけで外出している時に心配なこと

就学前児童保護者

小学生保護者

子どもと外出している時に心配なこと（就学前児童保護者）は、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」が80.4%で最も多く、子どもだけで外出している時に心配なこと（小学生保護者）は、「子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」が87.4%で最も多くなっています。

図表8 (複数回答)



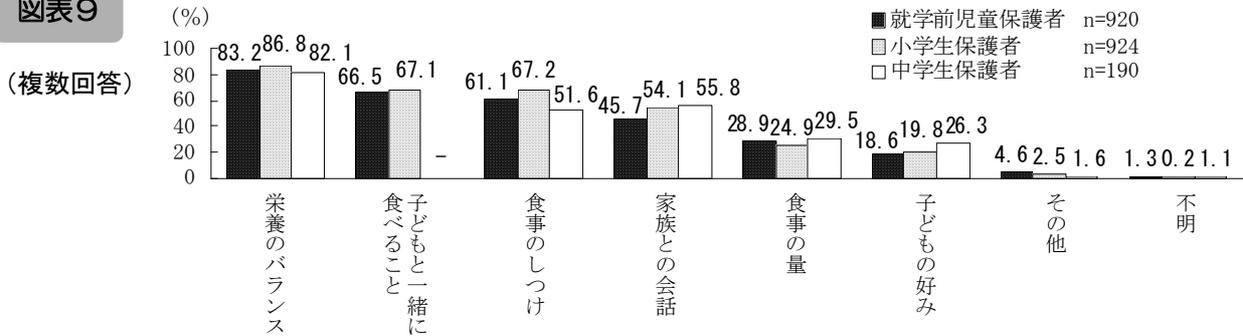
4 子どもの健康について

1 子どもの食事で大切にしていること

就学前児童保護者 小学生保護者 中学生保護者

子どもの食事で大切にしていることは、就学前児童保護者、小学生保護者、中学生保護者すべてで「栄養のバランス」が最も多くなっています。

図表9



※ 中学生保護者調査は「子どもと一緒に食べること」という選択肢がありません。

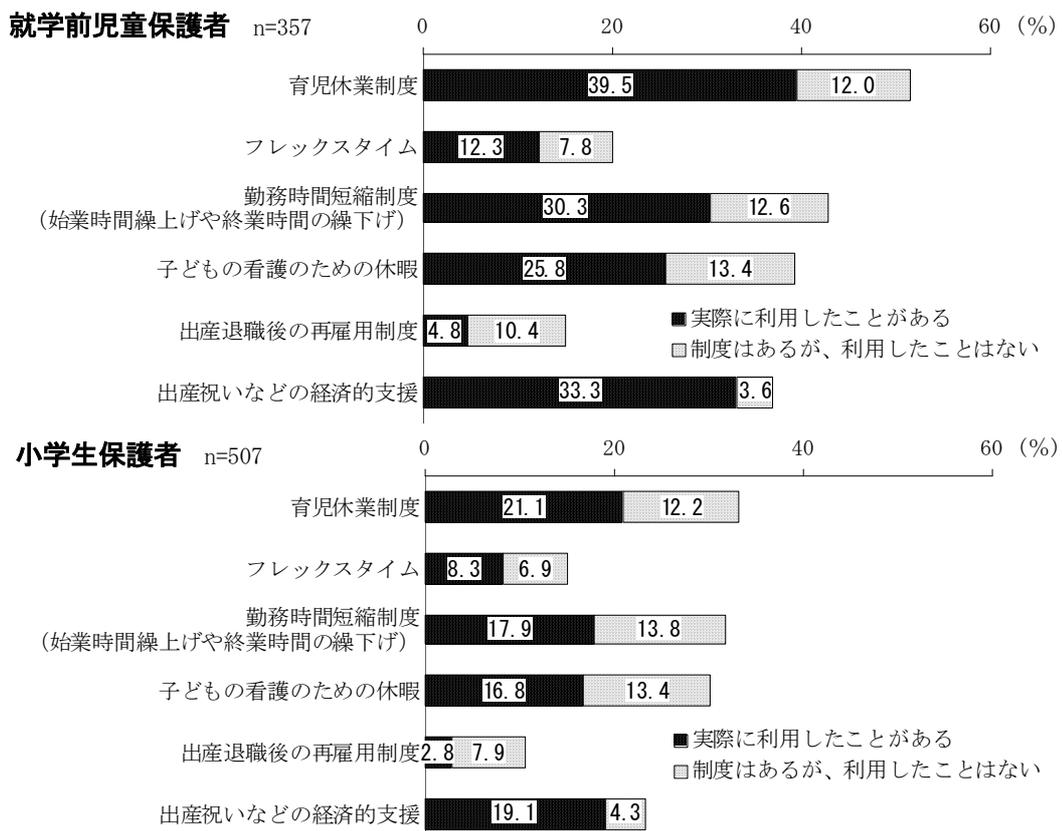
5 子育てと仕事への関わり方について

1 主に子どもの世話をしている保護者の職場にある子育て支援施策

就学前児童保護者 小学生保護者

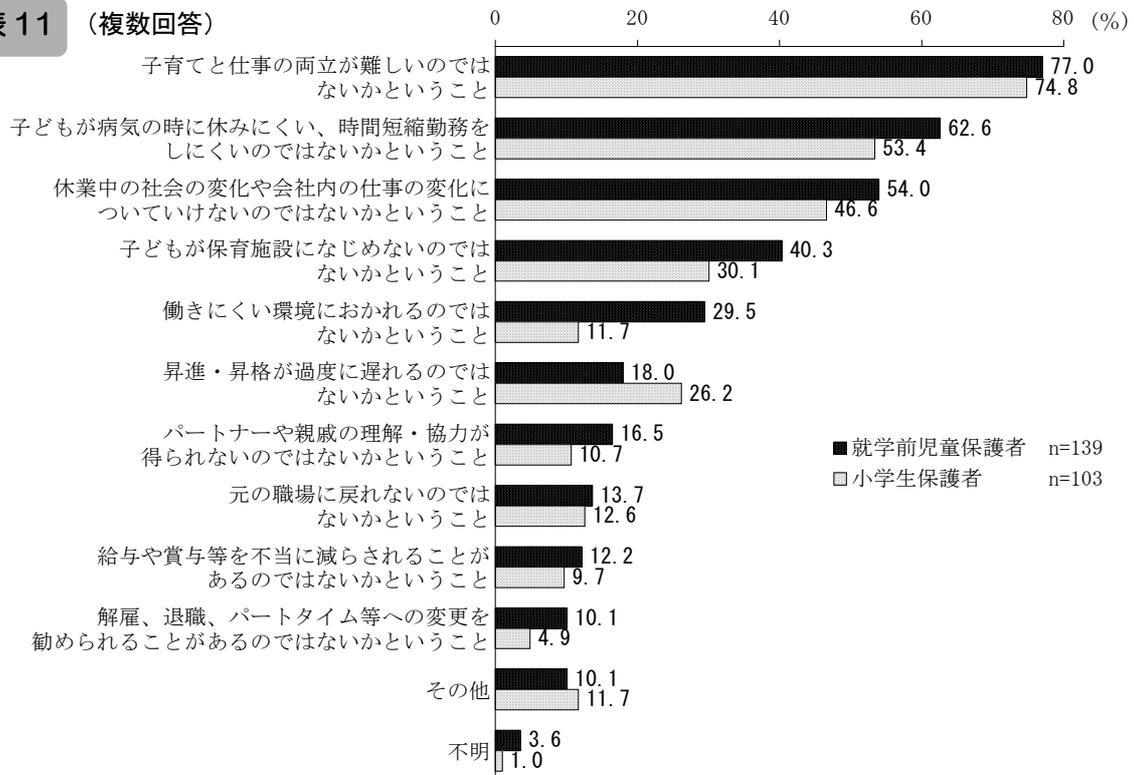
主に子どもの世話をしている保護者の職場にある子育て支援施策のうち、「実際に利用したことがある」制度として、『育児休業制度』が就学前児童保護者（39.5%）、小学生保護者（21.1%）ともに最も多くなっています。そのほか、『出産祝いなどの経済的支援』や『勤務時間短縮制度（始業時間繰上げや終業時間の繰下げ）』も「実際に利用したことがある」が多くなっています。

図表10



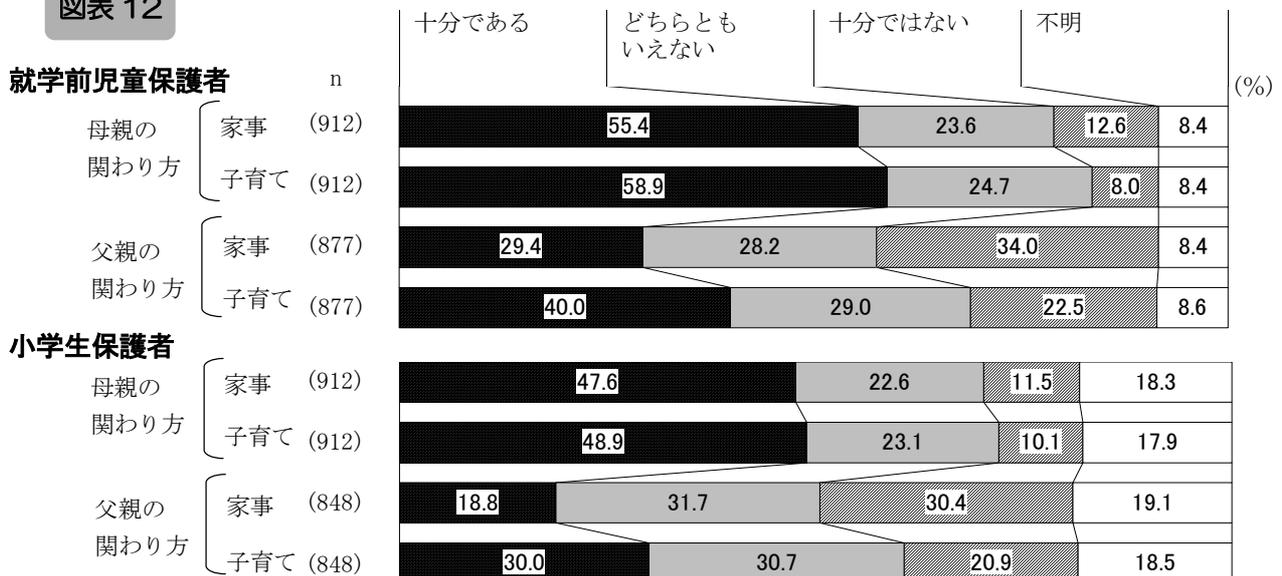
育児休業から仕事に復帰するときの心配ごとは、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「子育てと仕事の両立が難しいのではないかと」ということが最も多くなっています。

図表 11 (複数回答)



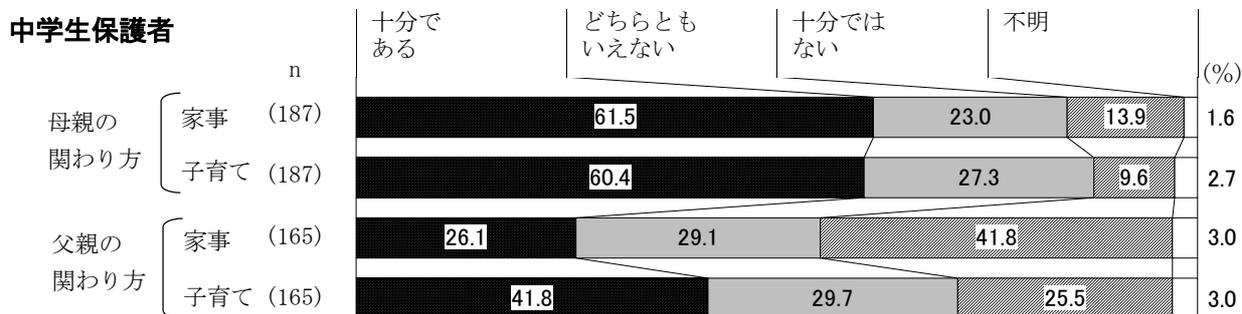
家事や子育てへの関わりについて、就学前児童保護者では、母親の関わり方は「十分である」が家事(55.4%)、子育て(58.9%)とも5割を超えています。父親の関わり方は家事で29.4%、子育てで40.0%となっています。小学生保護者では、母親の関わり方は「十分である」が家事(47.6%)、子育て(48.9%)とも4割を超えています。父親の関わり方は家事で18.8%、子育てで30.0%となっています。

図表 12



中学生保護者では、母親の関わり方について、「十分である」は家事（61.5%）、子育て（60.4%）ともに6割を超えています。父親の関わり方は家事で26.1%、子育てで41.8%となっています。

図表 13

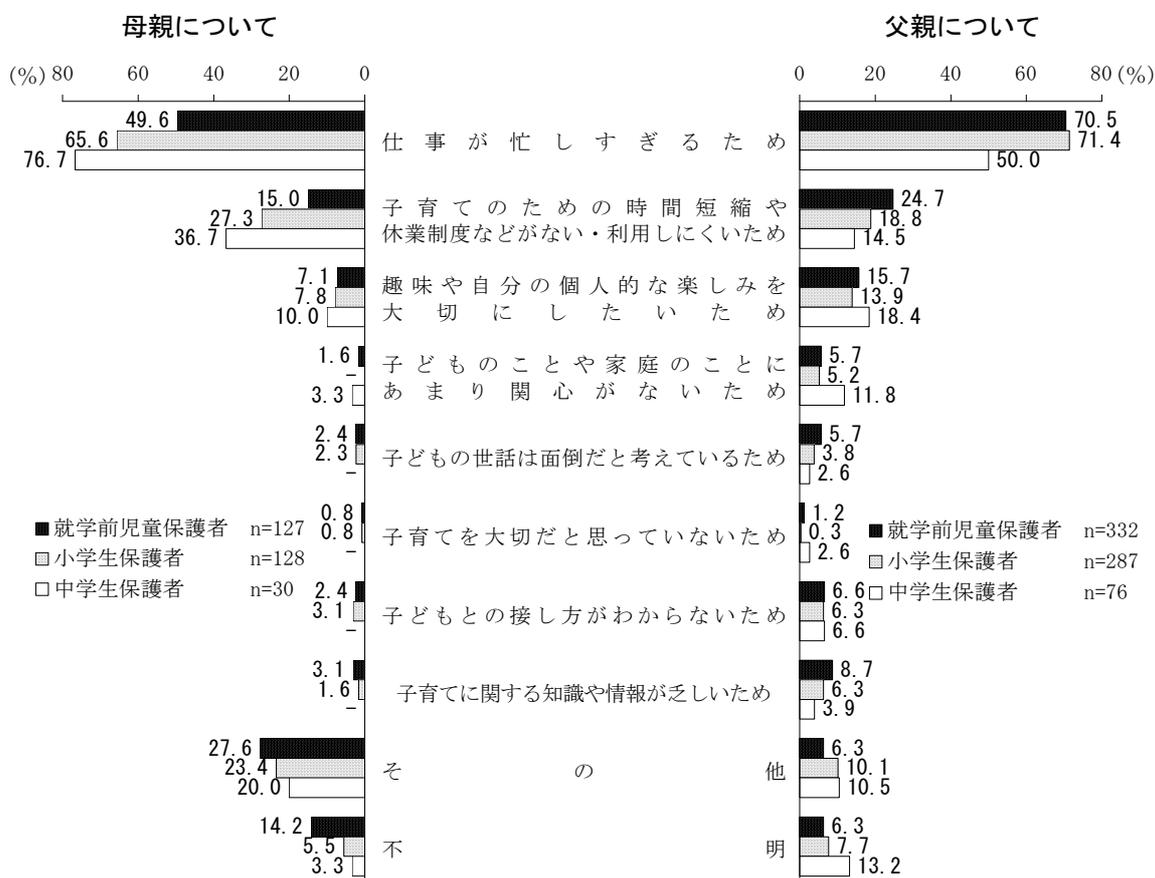


4 家事や子育てへの関わりが十分でない理由

就学前児童保護者 小学生保護者 中学生保護者

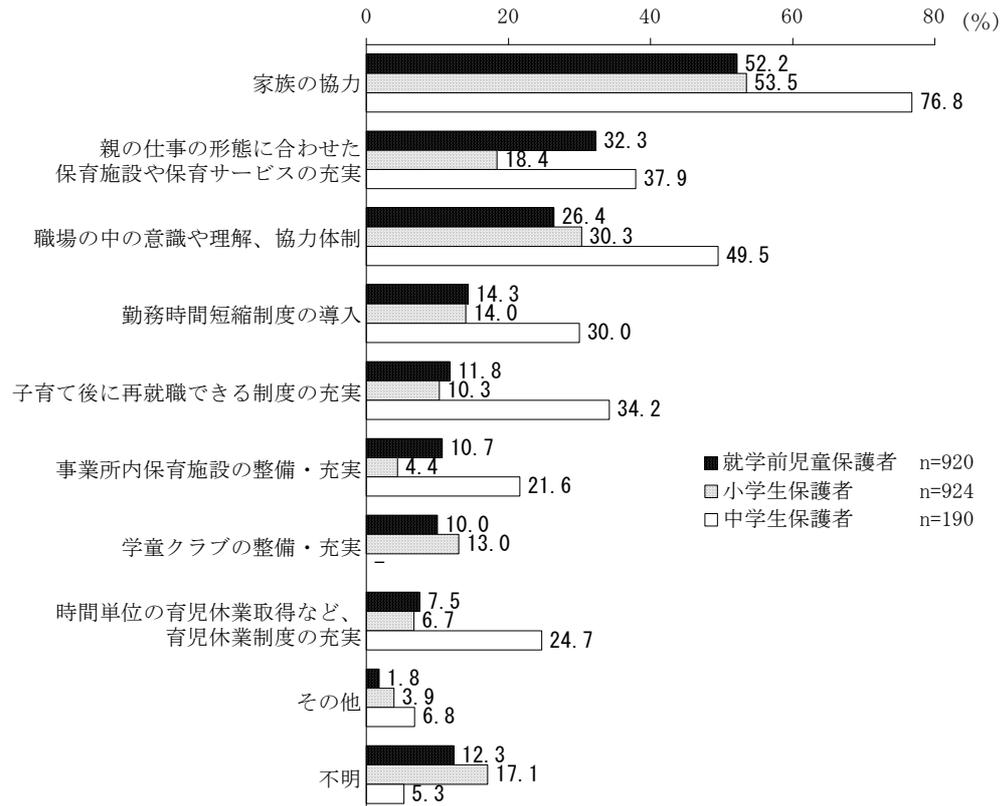
家事や子育てへの関わりが十分でない理由は、母親、父親ともに「仕事が忙しすぎるため」が最も多くなっています。次に、母親については、小学生保護者と中学生保護者で「子育てのための時間短縮や休業制度などが無い・利用しにくい」が多くなっています。父親については就学前児童保護者で「子育てのための時間短縮や休業制度などが無い・利用しにくい」が比較的が多くなっています。

図表 14 (複数回答)



仕事と子育ての両立のために必要なことは、「家族の協力」が就学前児童保護者で52.2%、小学生保護者で53.5%、中学生保護者で76.8%と特に多くなっています。次に、就学前児童保護者では「親の仕事の形態に合わせた保育施設や保育サービスの充実」(32.3%)、小学生保護者と中学生保護者では「職場の中の意識や理解、協力体制」(30.3%、49.5%)が続いています。

図表 15 (複数回答)



※ 中学生保護者調査は「学童クラブの整備・充実」という選択肢がありません。

6 新宿区の子育て環境について

1 新宿区の子育て環境評価

就学前児童
保護者

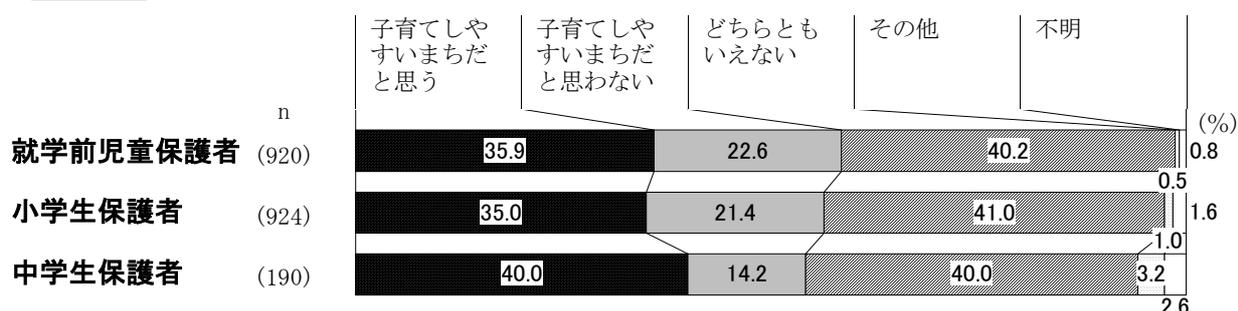
小学生保護者

中学生保護者

新宿区が「子育てしやすいまちだと思う」は就学前児童保護者で 35.9%、小学生保護者で 35.0%、中学生保護者で 40.0%です。その理由は、「交通機関が便利である」が最も多くなっています。

一方、子育てしやすいまちだと思わない理由は「自然環境が良くない」、「事故や犯罪が多く危険を感じる」、「公園や児童館など子どもの居場所が少ない」などが多くなっています。

図表 16 新宿区の子育て環境評価



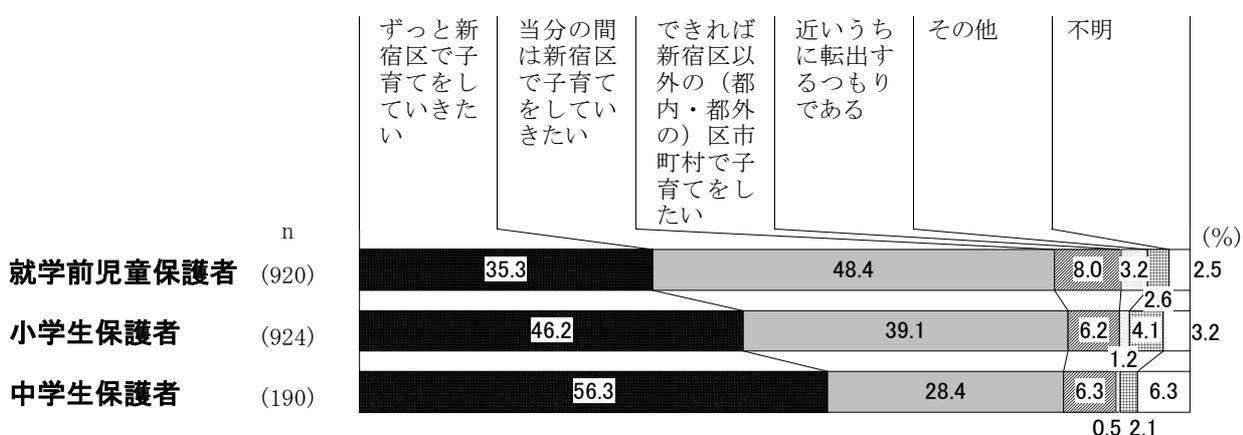
図表 17 子育てしやすいまちだと思う理由（複数回答）

順位	就学前児童保護者 n=330	小学生保護者 n=323	中学生保護者 n=76
1	交通機関が便利である 231 人	交通機関が便利である 238 人	交通機関が便利である 63 人
2	公園や児童館など子どもの遊び場が多い 155 人	職場と住居が近い 120 人	学校の教育環境が良い 36 人
3	保育園、幼稚園などが利用しやすい 133 人	公園や児童館など子どもの遊び場が多い 118 人	図書館や体育館・グラウンドなどの公共施設が利用しやすい 29 人
4	職場と住居が近い 104 人	住環境が良い 108 人	職場と住居が近い 24 人
5	住環境が良い 85 人	保育園、幼稚園などが利用しやすい 101 人	住環境が良い 19 人
6	保育サービスが充実している 77 人	近所づきあいや地域活動が盛んである 84 人	公園や児童館など子どもの居場所が多い 15 人
7	子育てに関する情報を得やすい 74 人	子育てに関する情報を得やすい 63 人	近所づきあいや地域活動が盛んである 13 人
8	自然環境が良い 66 人	自然環境が良い 62 人	自然環境が良い 9 人
9	近所づきあいや地域活動が盛んである 46 人	保育サービスが充実している 51 人	子育てに関する情報を得やすい 8 人
10	地域の子育てネットワークができています 31 人	地域の子育てネットワークができています 23 人	地域の子育てネットワークができています 4 人
11	事故や犯罪が少ない 15 人	事故や犯罪が少ない 23 人	事故や犯罪が少ない 4 人
12	その他 32 人	その他 42 人	その他 6 人

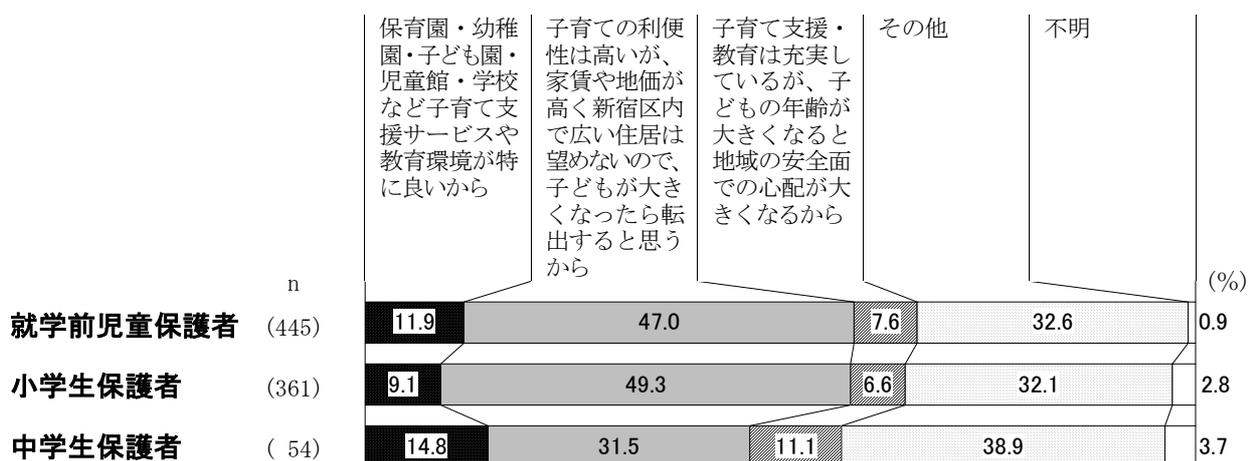
「ずっと新宿区で子育てをしていきたい」は就学前児童保護者で 35.3%、小学生保護者で 46.2%、中学生保護者で 56.3%となっています。

「当分の間は新宿区で子育てをしていきたい」は就学前児童保護者で 48.4%、小学生保護者で 39.1%、中学生保護者で 28.4%となっており、その理由は、「子育ての利便性は高いが、家賃や地価が高く新宿区内で広い住居は望めないのが、子どもが大きくなったら転出すると思うから」が就学前児童保護者、小学生保護者で半数近く、中学生保護者では 31.5%となっています。

図表 18 新宿区での子育て継続意向



図表 19 当分の間だけ新宿区で子育てをしていきたいと思う理由



7 子どもを守る仕組みについて

1 子どもの虐待やいじめなどを解決するために大切なこと

就学前児童
保護者

小学生保護者

中学生保護者

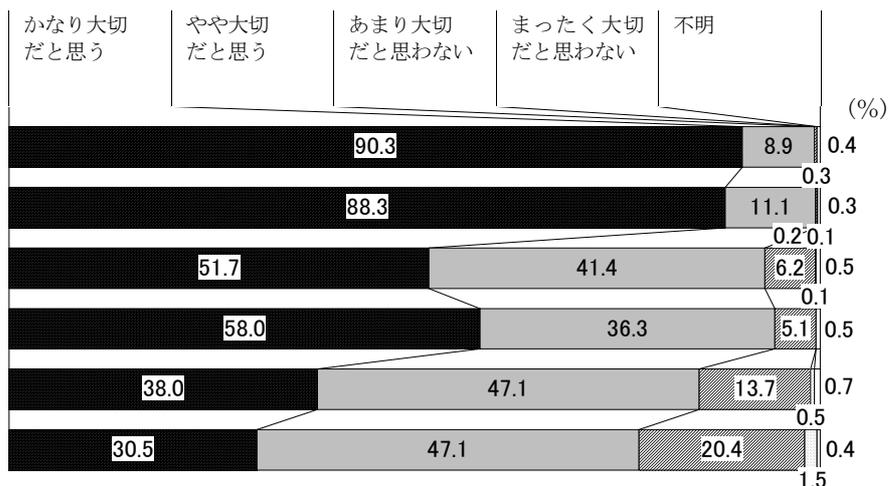
子どもの虐待やいじめなどを解決するために大切なことは、就学前児童保護者、小学生保護者、中学生保護者すべてで「大人が日常生活の中で、子どもの意見をよく聞くよう心がけること」、「命の大切さについて親子で話し合うこと」が8割以上と多くなっています。

図表 20

就学前児童保護者

n=920

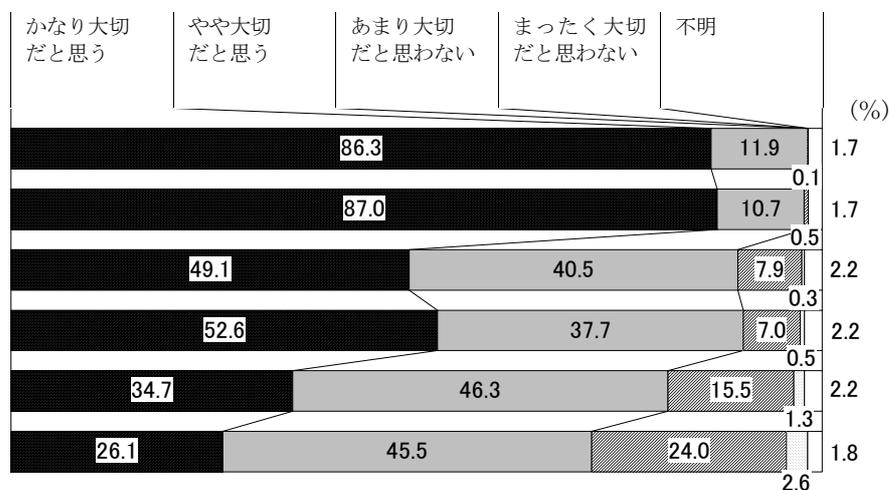
- 大人が日常生活の中で、子どもの意見をよく聞くよう心がけること
- 命の大切さについて親子で話し合うこと
- 子どもが安心して相談できる窓口を充実させること
- 子どもの虐待やいじめの防止について、多くの人に呼びかけること
- 子どもの権利についての普及・啓発を行うこと
- 子どもの権利に関する条例や憲章などをつくること



小学生保護者

n=924

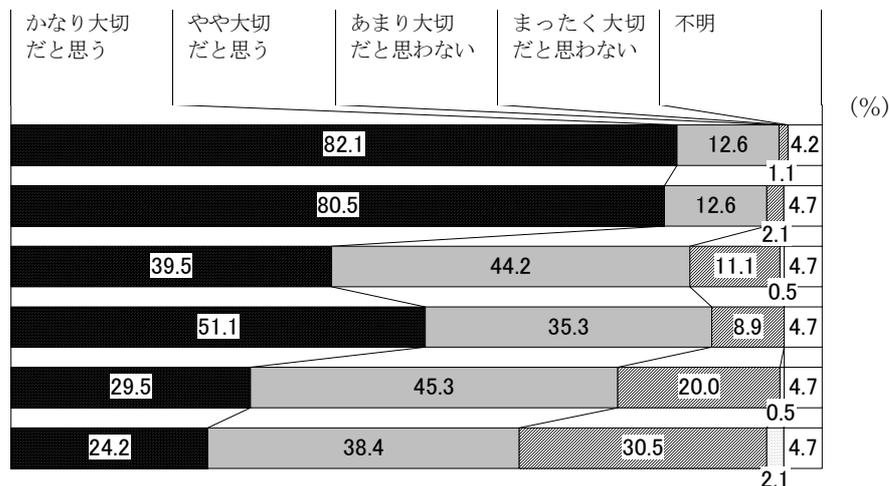
- 大人が日常生活の中で、子どもの意見をよく聞くよう心がけること
- 命の大切さについて親子で話し合うこと
- 子どもが安心して相談できる窓口を充実させること
- 子どもの虐待やいじめの防止について、多くの人に呼びかけること
- 子どもの権利についての普及・啓発を行うこと
- 子どもの権利に関する条例や憲章などをつくること



中学生保護者

n=190

- 大人が日常生活の中で、子どもの意見をよく聞くよう心がけること
- 命の大切さについて親子で話し合うこと
- 子どもが安心して相談できる窓口を充実させること
- 子どもの虐待やいじめの防止について、多くの人に呼びかけること
- 子どもの権利についての普及・啓発を行うこと
- 子どもの権利に関する条例や憲章などをつくること



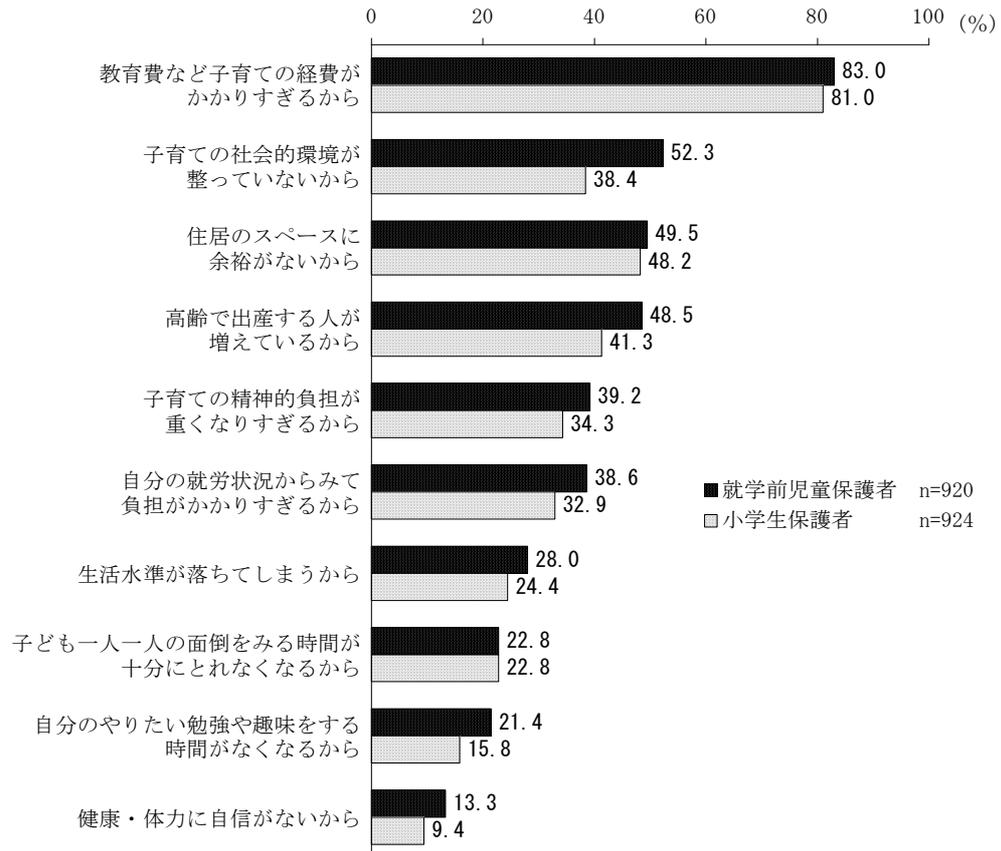
1 子どもの数の理想と現実には差がある原因

就学前児童
保護者

小学生保護者

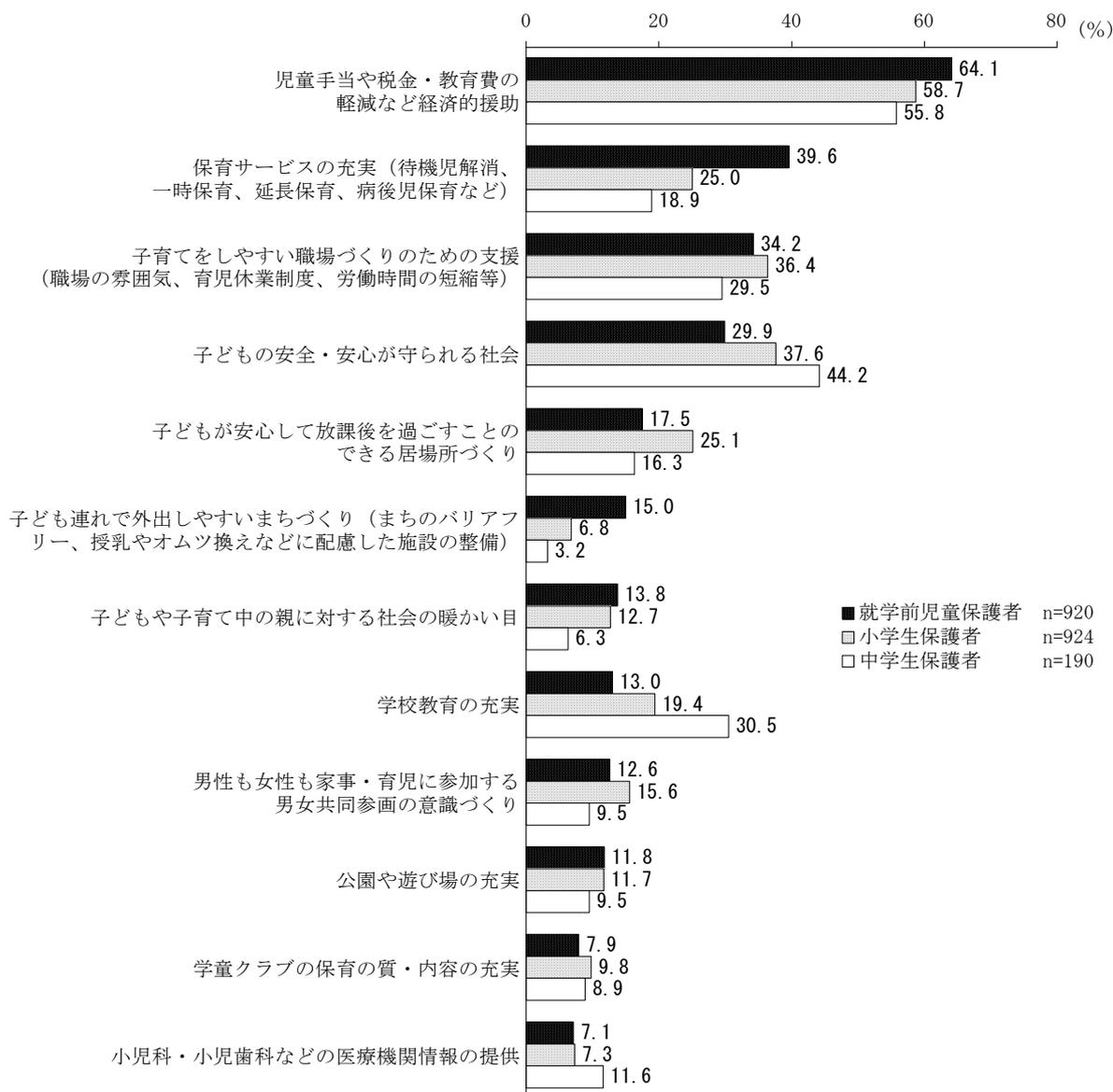
子どもの数の理想と現実には差がある原因は、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「教育費など子育ての経費がかかりすぎるから」が最も多くなっています。次に、就学前児童保護者では「子育ての社会的環境が整っていないから」（52.3%）が続いています。

図表 21 （複数回答、上位 10 項目）



子どもを育てやすい社会に必要なことは、就学前児童保護者、小学生保護者、中学生保護者すべてで「児童手当や税金・教育費の軽減など経済的援助」が最も多くなっています。次に、就学前児童保護者では「保育サービスの充実（待機児解消、一時保育、延長保育、病後児保育など）」が39.6%、小学生保護者と中学生保護者では「子どもの安全・安心が守られる社会」（37.6%、44.2%）が続いています。

図表 22 （複数回答、上位 12 項目）



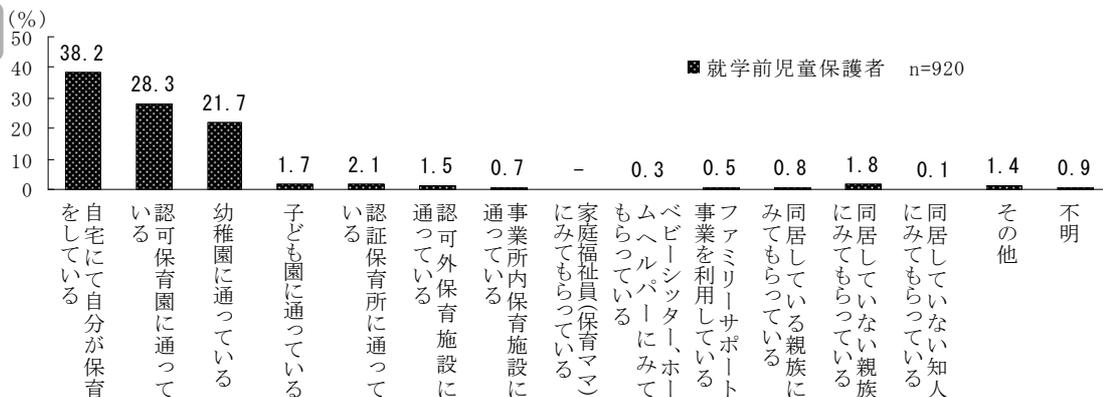
9 保育サービス等の利用について

1 保育状況（現状）

就学前児童
保護者

就学前児童保護者の、平日の児童の保育状況は、「自宅にて自分が保育をしている」が38.2%、「認可保育園に通っている」が28.3%、「幼稚園に通っている」が21.7%となっています。

図表 23

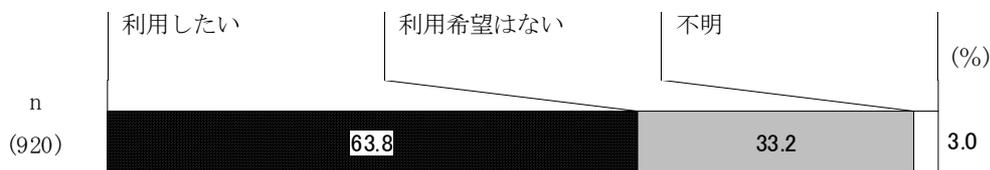


2 利用意向

就学前児童
保護者

就学前児童保護者の、平日の保育サービスの利用意向は、「利用したい」が63.8%となっています。サービスの内容は、「認可保育園」が54.7%、「幼稚園」が16.9%、「子ども園」が16.2%となっており、保育時間は「7～10時間未満」が34.2%と最も多くなっています。

図表 24



10 就学後の放課後の過ごし方について

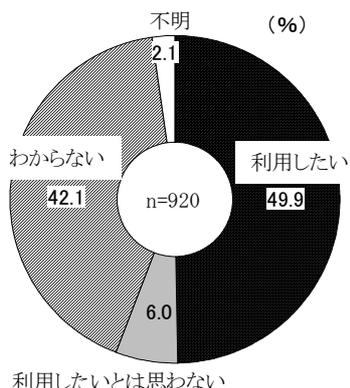
1 放課後子どもひろばの利用意向・放課後の居場所の希望

就学前児童
保護者

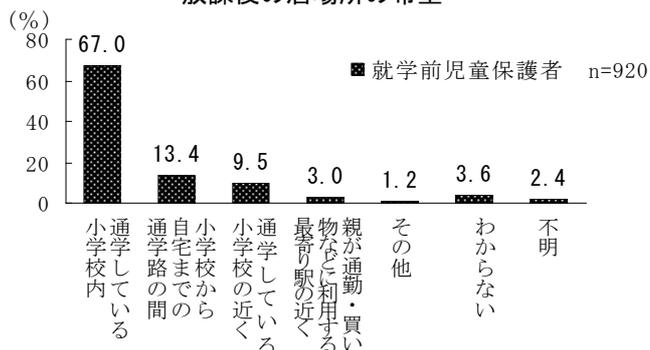
就学前児童保護者の、子どもの就学後の放課後子どもひろばの利用意向は、「利用したい」が49.9%、「わからない」が42.1%となっています。

放課後の居場所の希望については、「通学している小学校内」が67.0%と特に多くなっています。

図表 25 放課後子どもひろばの利用意向



放課後の居場所の希望



中学生本人・青少年（15～17歳）調査の結果

1 日常生活や学校生活について

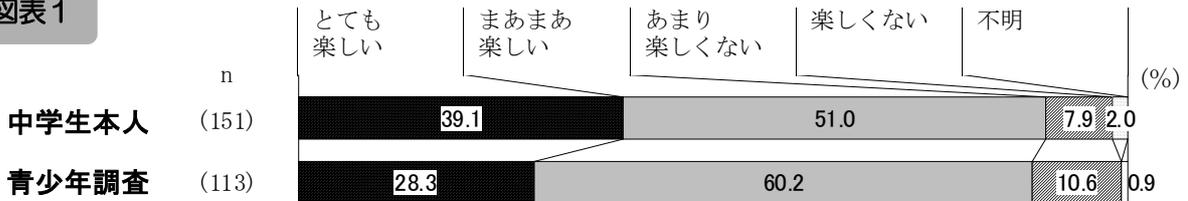
1 毎日の楽しさ

中学生本人

青少年
(15～17歳)

毎日の生活が「とても楽しい」は、中学生本人で 39.1%、青少年で 28.3%となっています。

図表1



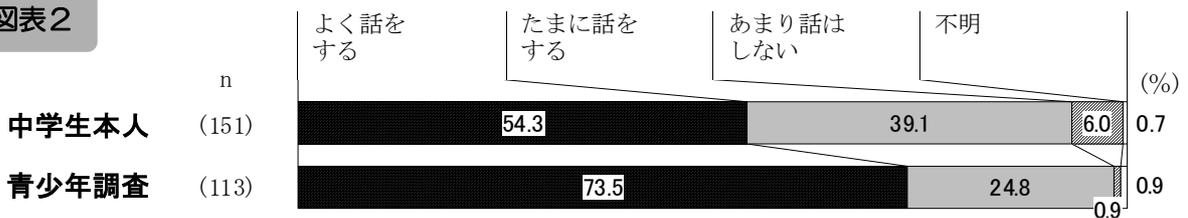
2 家族との関わり

中学生本人

青少年
(15～17歳)

家族と「よく話をする」は中学生本人で 54.3%、青少年では 73.5%となっています。

図表2



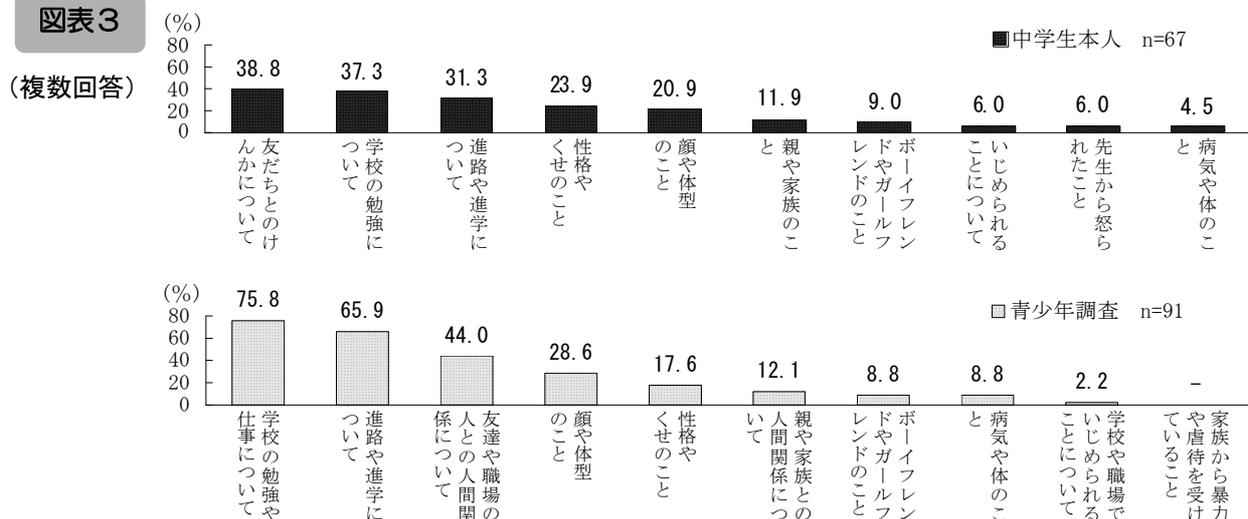
3 悩みごと

中学生本人

青少年
(15～17歳)

悩みごとは、中学生本人では「友だちとのけんかについて」(38.8%)、「学校の勉強について」(37.3%)、「進路や進学について」(31.3%)の順に、青少年では「学校の勉強や仕事について」(75.8%)、「進路や進学について」(65.9%)、「友達や職場の人との人間関係について」(44.0%)の順になっています。

図表3



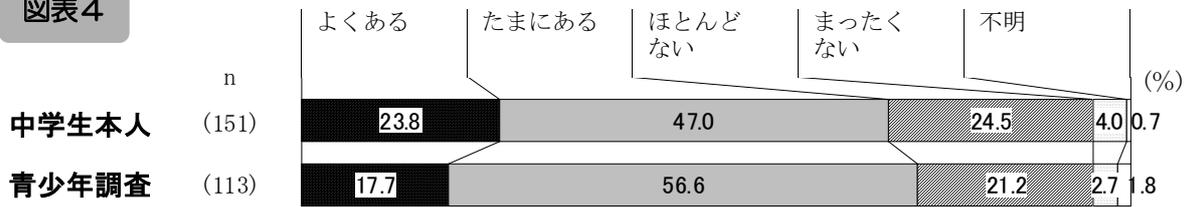
4 むしゃくしゃ、イライラすること

中学生本人

青少年
(15~17歳)

むしゃくしゃ、イライラすることが「よくある」は、中学生本人で 23.8%、青少年で 17.7% となっています。

図表4



2 食事や健康などについて

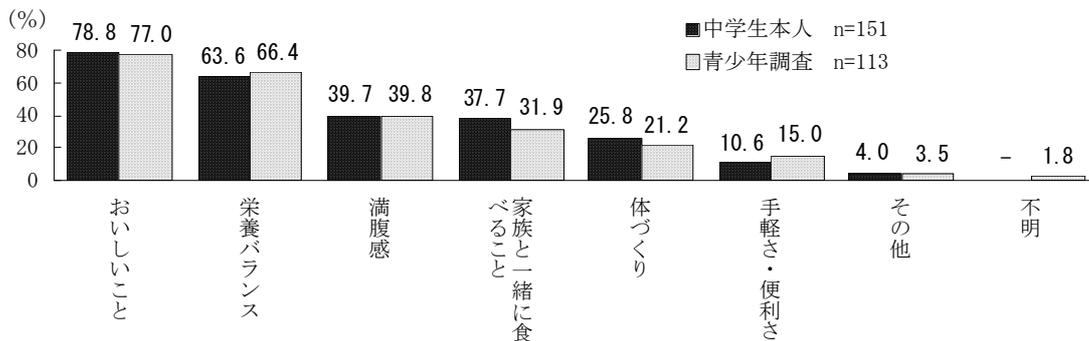
1 食事で大切にしていること

中学生本人

青少年
(15~17歳)

食事で大切にしていることは、中学生本人、青少年ともに「おいしいこと」が7割台後半と最も多く、次に「栄養バランス」が続いています。

図表5 (複数回答)



3 コミュニケーションツールについて

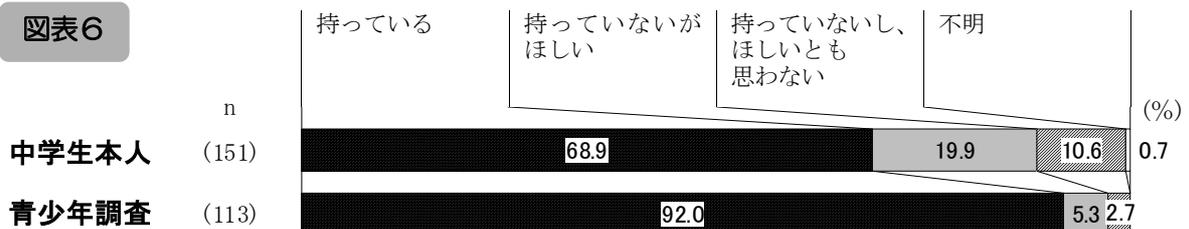
1 専用携帯電話の所有状況

中学生本人

青少年
(15~17歳)

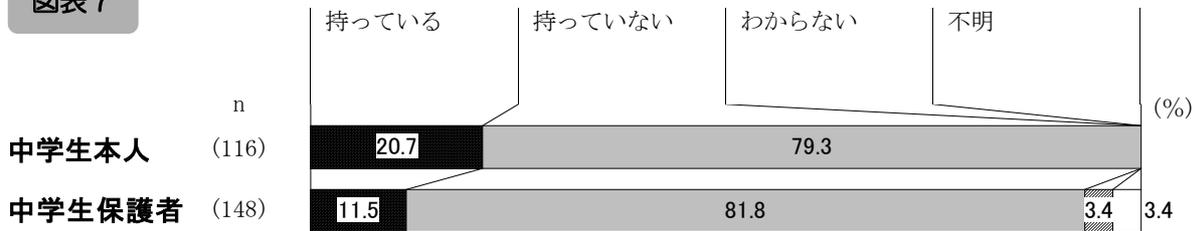
専用携帯電話を「持っている」は、中学生本人では 68.9%、青少年では 92.0% となっています。

図表6



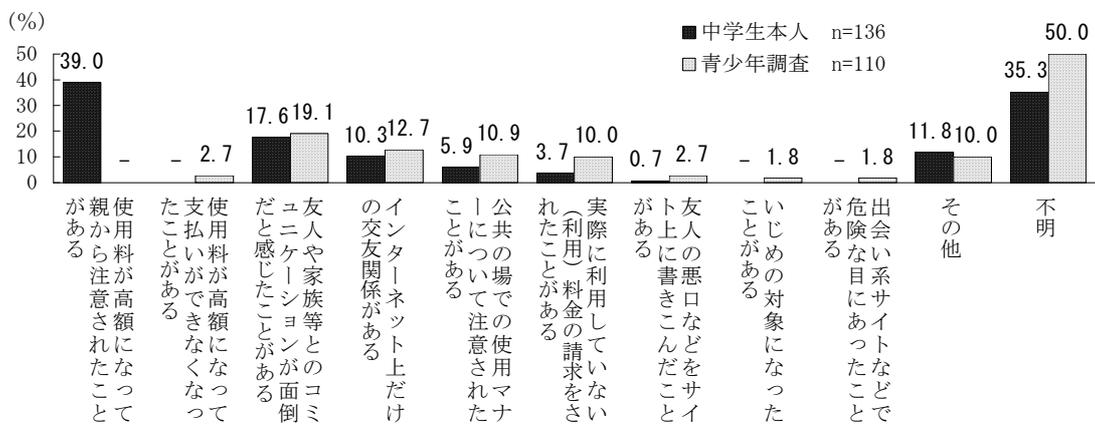
自分のブログやプロフィール、ホームページの所有状況は、中学生本人では「持っている」が20.7%ですが、中学生保護者で子どもが「持っている」と思っている人の割合は11.5%と差がみられます。

図表7



携帯電話やパソコンの使用について困ったことは、中学生本人では「使用料が高額になって親から注意されたことがある」が39.0%で最も多くなっています。「友人や家族等とのコミュニケーションが面倒だと感じたことがある」は中学生本人で17.6%、青少年で19.1%となっています。

図表8 (複数回答)



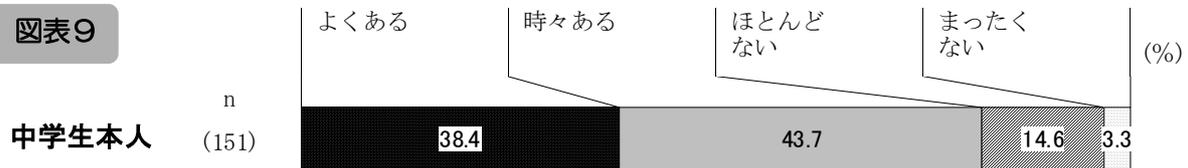
4 地域との関わりについて

1 近所付き合い（あいさつや会話）の状況

中学生本人

中学生本人の、近所付き合いの状況は、「よくある」が 38.4%、「時々ある」が 43.7% となっています。

図表9



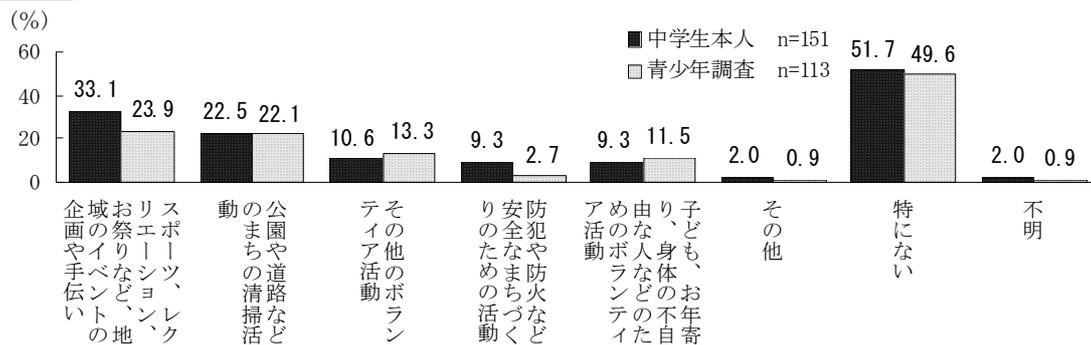
2 地域活動の参加経験

中学生本人

青少年 (15~17歳)

地域活動の参加経験は、中学生本人、青少年ともに「スポーツ、レクリエーション、お祭りなど、地域のイベントの企画や手伝い」と「公園や道路などのまちの清掃活動」が多くなっています。

図表10 (複数回答)



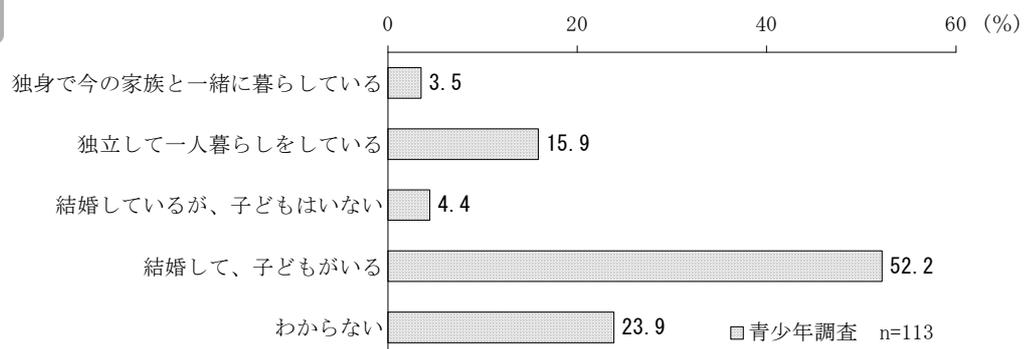
5 結婚や子育てについて

1 20年後の家族について

青少年 (15~17歳)

青少年の、20年後の家族については、「結婚して、子どもがいる」が 52.2% となっています。

図表11



▶▶ 少子社会に関する調査の結果（18歳から34歳までの男女）

1 日常生活について

1 毎日の楽しさ

毎日の生活が「とても楽しい」は17.7%、「まあまあ楽しい」は60.6%となっています。

図表1

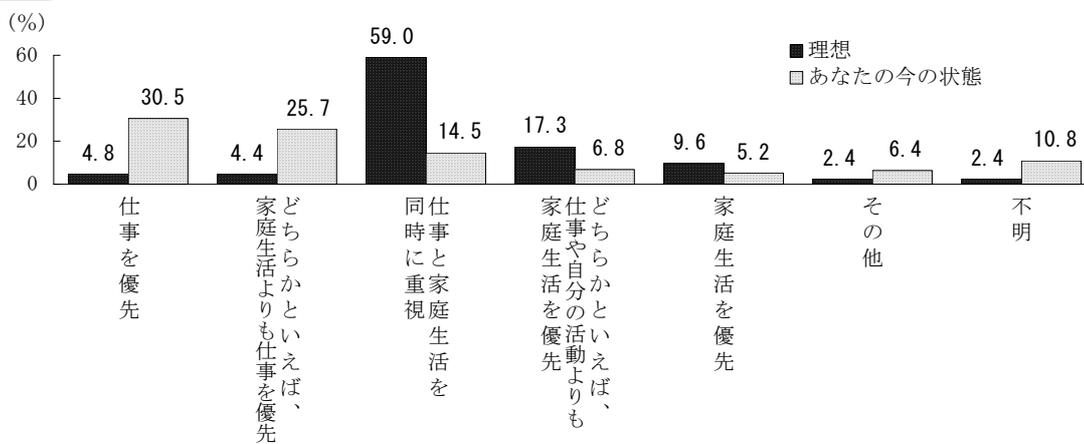


2 仕事と生活のバランス（理想・あなたの今の状態）

仕事と生活のバランスについては、「仕事と家庭生活を同時に重視」したいという理想を描いている人が59.0%と多いものの、現在の状態では「仕事を優先」（30.5%）または「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事を優先」（25.7%）としている人が多くなっています。

図表2

n=249

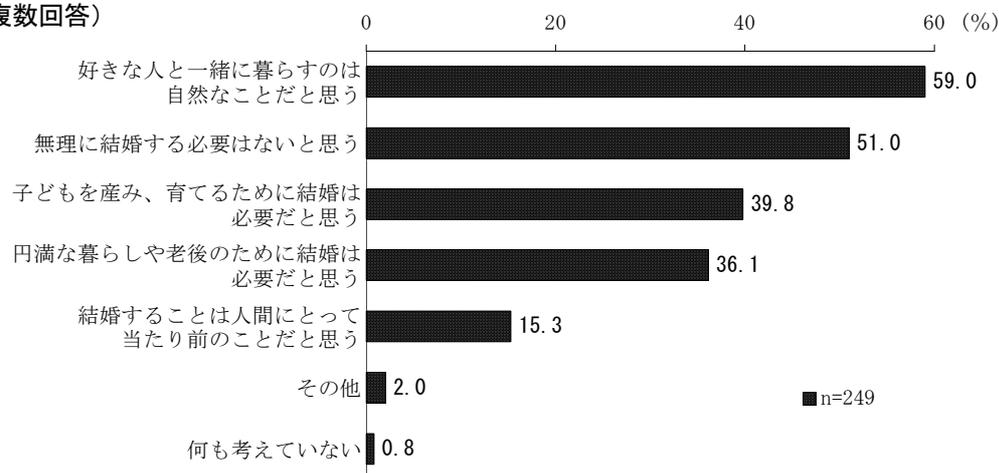


2 結婚や子育てについて

1 結婚についての考え方

結婚についての考え方は、「好きな人と一緒に暮らすのは自然なことだと思う」が59.0%、「無理に結婚する必要はないと思う」が51.0%の順に多くなっています。

図表3 (複数回答)

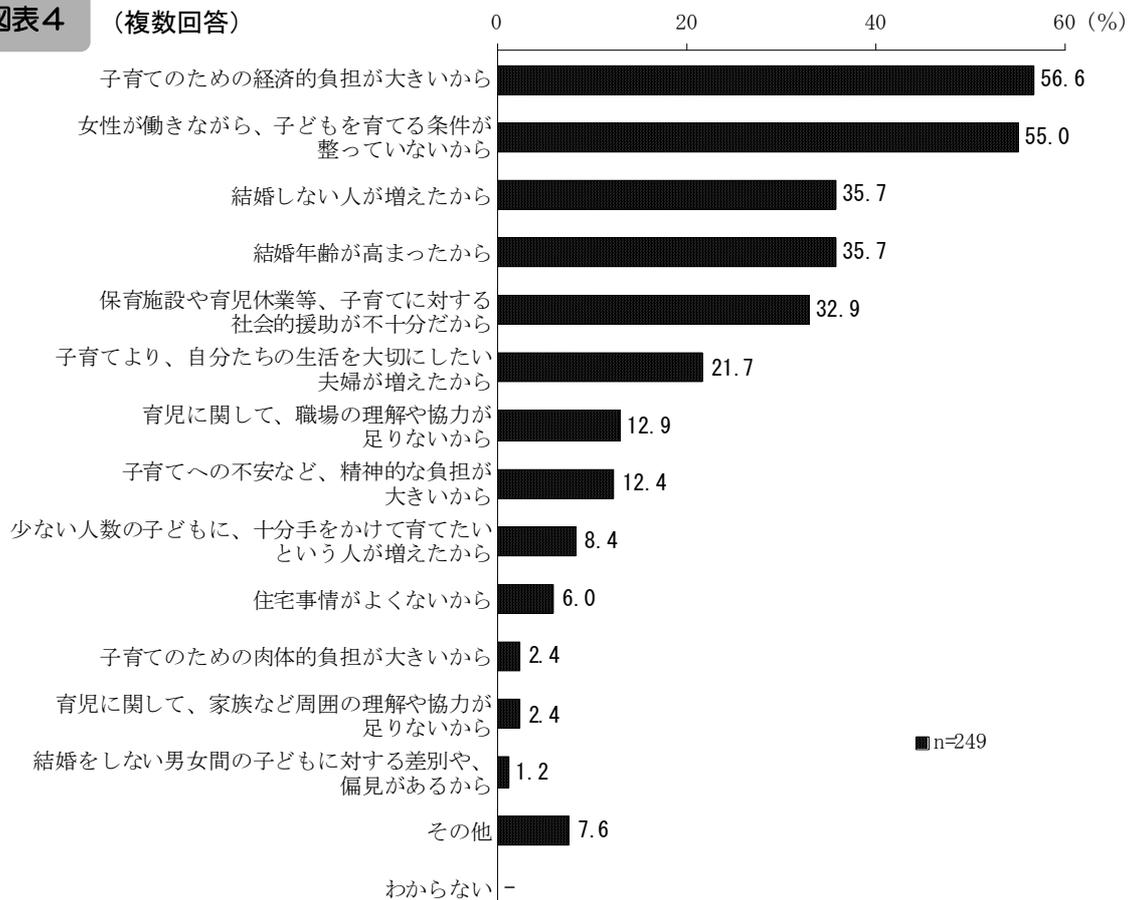


3 少子化について

1 少子化の原因

少子化の原因は、「子育てのための経済的負担が大きいから」(56.6%)と「女性が働きながら、子どもを育てる条件が整っていないから」(55.0%)が多くなっています。

図表4 (複数回答)

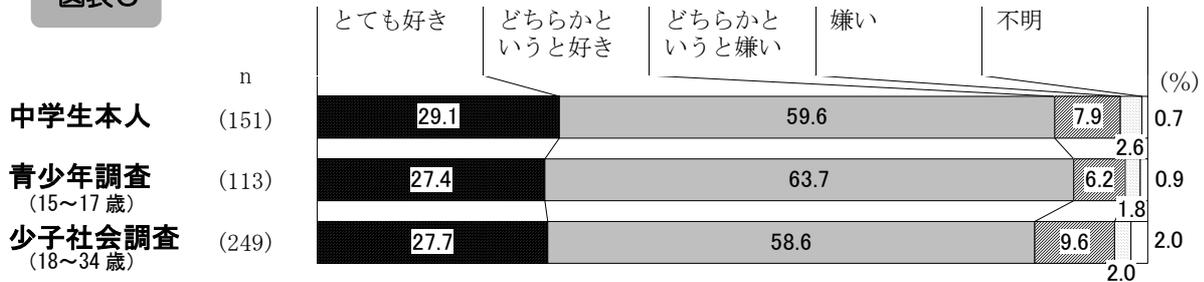


4 新宿区について

1 新宿区への愛着度

新宿区への愛着度は、「とても好き」は中学生本人で 29.1%、青少年調査で 27.4%、少子社会に関する調査で 27.7%となっています。

図表5



この印刷物は、業務委託により 2,500 部印刷製本しています。その経費として1部あたり 80 円（税別）がかかっています。ただし、編集時の人件費等は含んでいません。

新宿区次世代育成支援に関する調査報告書（概要版）

発行年月 平成21年3月
 編集・発行 新宿区子ども家庭部子ども家庭課
 〒160-8484
 東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
 電話03(5273)4260
 調査委託 (株)サーベイリサーチセンター

印刷物作成番号
2008-8-3001



古紙パルプ配合率70%
白色度70%再生紙を使用しています

新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。

本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。